

日本博 基本コンセプト



※1



基本コンセプト:「日本の美と心」

縄文時代から現代まで1万年以上もの間、我が国では山や海や物も含めた万物に命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を文化芸術や日々の暮らしで表現してきた。

縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、音楽、現代アート、マンガ・アニメ、メディアアートなど様々な芸術分野に、この国の風土や日本人の自然観が反映されている。また、衣食住をはじめとする暮らし・生活様式においても、人が自然に対して共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしてきた。

「日本博」では、縄文時代から現代まで続く我が国の文化芸術を「日本の美と心」をテーマに国内外へ発信し、多様な主体の参画と対話により、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、社会課題の解決、経済社会の新しい成長、平和への祈りへとつながることを希求する。



※2



※3

*1) トマ・デレーム『Légumineux 菜光ーヴェルサイユ宮殿庭園の古代種ー』展示風景 両足院(建仁寺山内)

*2) 名和晃平『White Deer (Meiji Jingu)』2020 ブロンズに塗装 Photo: Keizo Kioku

*3) 庵野秀明展 東京会場の様子 提供 庵野秀明展実行委員会

「日本博」の実施体制及び枠組みについて

■ 実施体制

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣 議長代理：内閣官房長官
議長補佐：内閣官房副長官（参）
事業統括：文化庁長官
その他構成員：関係閣僚等及び学識経験者

日本博の開催準備等に関する関係府省 連絡会議

議長：内閣官房副長官（参）
議長代理：内閣官房副長官補（内政）
議長補佐：文化庁長官

全体統括 文化庁

企画の立案・実施
日本芸術文化振興会
日本博事務局

国立文化施設

地方公共団体

文化施設、芸術団体、公益法人、
民間企業など

■ 日本博事業実施の枠組み

委託型

インバウンドが日本文化の本質を深く理解し楽しむこと
のできる、インバウンド向けの文化コンテンツを創出し、
国際発信を通じて全国各地を訪れるインバウンドの増及
及び消費拡大を促す事業で、全国のモデルケースとして普
及・展開が期待できるもの

補助型

地域の多様な文化資源を活用し、インバウンドが日本文
化の本質を深く理解し楽しめる文化コンテンツを各地に
創出し、国際発信を通じて地域へのインバウンド来訪増、
及び消費拡大を促す事業

参画型

国外に発信するのにふさわしいプロジェクトや文化施設に
日本博のロゴマークを付与し、日本博事業と連携して一体
的なプロモーションを実施。公募申請により認証（財政的
支援は伴わない）

日本博プロモーション

日本博事務局において戦略的なプロモーションを実施

日本博の新たな方針

今後の日本博は、

魅力ある文化芸術の振興を図ることで、「**日本列島を美しく、強く、豊か**」に
という方針の下、新たな3つの項目に視点を当て実施。

- 【1】全国各地の文化を活かし、「**日本の可能性を拓く**」
- 【2】多様性に富んだ地域の「**伝統文化とコンテンツの活用**（成長戦略や地域未来戦略と連携）」
- 【3】横浜グリーンエキスポをはじめとする「**国際プロジェクトへの貢献**」

【1】全国各地の文化を活かし、 日本の可能性を拓く

- 地方の文化資源の再評価、
魅力を国内外へ発信
- 全国各地へのインバウンド
誘客、長期滞在化に資する
取組強化
- 地方と海外を直接つなぐ
販路形成

【2】伝統文化とコンテンツの活用 （成長戦略や地域未来戦略と連携）

- 伝統芸能と最新技術を活用
した「特別な体験」の提供
（ナイトタイムを含む多様な機会の
活用を含む）
- アニメ・マンガ等との更なる
連携（「聖地巡礼」など）
- 海外富裕層を視野に入れた
高付加価値な体験の提供

【3】国際プロジェクトへの貢献

- 文化芸術を活用し、横浜グ
リーンエキスポなどの国際
プロジェクトへ貢献、地方
周遊を促進
- 文化芸術の国際発信によ
り、日本の「ソフトパワー」
向上に貢献